

1 学校教育目標

すべてのことに全力で取り組む生徒の育成

「一生懸命勉強する」「優しい心を持つ」「感動する」生徒の育成

- めざす学校像 (1) 未来につながる学び場
(2) 感動がある学びの場
(3) 温かい人間関係を築く場
(4) 三者(学校、家庭、地域)協働による子育ての場
- めざす生徒像 (1) 学び(授業、行事、部活動)に感動する生徒
(2) 学びをとおして人に感動を与えることができる生徒
(3) 美しいもの、一生懸命な姿に感動する生徒
(4) さわやかな挨拶ができる生徒
(5) 学校行事で、しっかり歌って、歩ける生徒
- めざす教師像 (1) 生徒指導が機能する授業、行事、部活動で勝負できる教師
(2) 生徒とともに汗を流し、感動する教師
(3) 教えるプロ意識と技能を持ち、組織力を発揮する教師
(4) 部活動、学校行事に燃え、生徒と一緒に汗を流し感動する教師
(5) 常識ある社会人、地域の一員である教師

2 前年度の研究

(1) テーマ

「生徒指導が機能する授業実践」

－生徒指導の三機能に視点を置いた「ペア・グループ学習」

における教師独自の手立てを通して－

(2) 成果と課題

【成果】

○教員の授業力向上に向けて

*全教職員が1回公開授業、授業研究会を3回実施

- ・生徒指導の三機能(自己存在感、共感的人間関係、自己決定)に視点を置いた教師独自の手立て(工夫)を明記した指導案を作成した。
- ・本時の目標を明確化し、その目標に沿った評価規準を設定する指導案作りを行った。
- ・意図的、計画的に生徒指導が機能する「ペア・グループ学習」を授業に取り入れ、生徒が学びあい、つながり合う活動ができる授業づくりを行った。
- ・生徒と教師の言動をとらえた事後研究会を行い、鑑識眼(授業を観る目)の向上を図った。

○学力向上に向けて

- ・7時間目15分間の「学習タイム」(5教科)を工夫して実施。
- ・各学年ごとの「学習の手引き」の改訂を行い、より有用なものにした。
- ・土曜学習会の実施・・・子どもサポーターや保護者ボランティアによる学習会。

○幼小中の連携の推進

- ・6月に授業参観(池尻小・昆陽小・花里小) ・夏休みに合同研修会
- ・地域との連携(夏祭り、餅つき大会など)

【課題】

- ・教師の80%が「生徒指導が機能する授業を実践している」と回答しているが、「授業が楽しくわかりやすい」と回答した生徒が73%(昨年度72%)、「学力向上のために授業の工夫をしている」と回答した保護者が75%(昨年度80%)であった。肯定評価が減少しており、生徒や保護者の期待に十分応えられているとはいえず、また学年によって評価に開きがある。
- ・公開授業を見学する教師が少ない。事前に時間割を調整するなどして、せめて同じ教科の授業は見学する

など、公開授業をより活用していく必要がある。

- ・本時の目標達成のための手立て（工夫）が、その教師ならではのものに未だになっていない。他の教師の授業を観たり、研究会に積極的に参加して、自分の授業に新しいものを取り入れる意欲と工夫が必要である。
- ・校内教科部会の計画的、効果的な運営方法を具体化する必要がある。
- ・幼小中合同研修会では活発な意見交換がなされるが、交流からより具体的な取り組みに深めることが今後の課題である。

3 本年度の研究

(1) テーマ

「生徒指導が機能する授業実践」

－生徒指導の三機能に視点を置いた「ペア・グループ学習」

における教師独自の手立てを通して－

(2) テーマ設定の理由

前年度課題でも記したように、生徒・保護者のアンケートでは、昨年度より肯定評価が減少傾向にある。「楽しくわかりやすい授業」をめざして、ICTの活用やペア・グループ学習の実施方法など、改善点は多くあり、さらに研修を重ねる必要がある。また授業に参加していない不登校生、生徒指導上の課題を有する生徒がいる状況は変わらず、本校の課題は、依然、教師の生徒指導力の向上と生徒の学力向上である。授業、研究、生徒指導の三つを一体として実践する必要がある、生徒指導の三つの視点を取り入れた授業ができる力をつけることが、生徒指導力の向上、そして生徒の学力向上にもつながるものと考え、昨年度と同様の研究テーマを設定した。

(3) 具体的な実践内容

「知識・技能」（見える学力）と「思考力・判断力・表現力」「意欲・関心・態度」（見えない学力）を授業、行事、部活動で並行して育てる。

授業、行事、部活動をとおして得られる達成感、満足感、自信を前向きな意欲につなげる。

① ペア・グループ学習を取り入れた授業

生徒指導の三機能に視点を置いた生徒の主體的な学び、対話的な学び、深い学びをめざす（アクティブ・ラーニング）。

② 単元・本時の目標の明確化

授業後に生徒が実感できる力、授業で生徒にどのような力をつけさせるのかを目標とする授業を実践し、その力を確実に評価する（パフォーマンス評価）。

③ 授業者ならではの「見せ場」の設定

目標達成のために授業者は何をするのか（見せ場＝授業者ならではの手立て・工夫）を毎時間行う。

④ 全教師が公開授業を実施

すべての教師が本校独自の指導案に基づく授業を公開する。

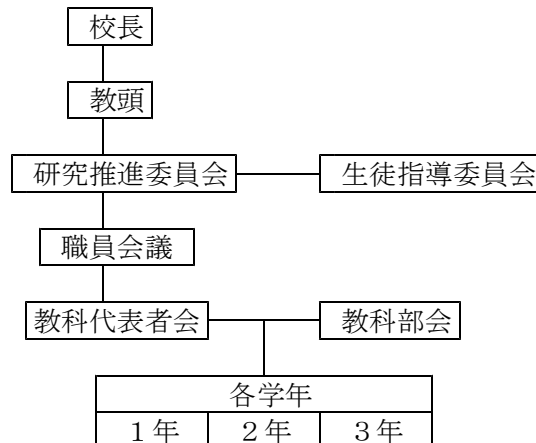
⑤ 授業研究会の実施

学期に1回、研究授業と事後研究会を実施し、授業力向上と鑑識眼（授業を観る眼）の向上をめざす。

※ 生徒指導の三機能

「自己存在感を与える」「共感的人間関係を育成する」「自己決定の場を与える」

(4) 研究推進体制



(5) 研究推進計画

	授業研究会	校内研修会
3月 4月	<ul style="list-style-type: none"> 研究テーマ、年間研究計画提案 公開授業計画(教師1人1授業) (教科部会で順番決定) 	<ul style="list-style-type: none"> 「学習の手引き」改訂 校内研修会 (生徒指導、特別支援教育に関する共通理解)
5月 6月 19,20or21日	<ul style="list-style-type: none"> 公開授業実施開始(～12月) 第1回 研究授業、事後研究会 	<ul style="list-style-type: none"> 小中連絡会 小学校授業参観 夏季研修会計画 校内研修会 (生徒指導、教育相談、特別支援教育、人権道徳、情報教育) (幼小中合同学習会) (各教科)
8月1日(午後) 8月23日		
9月 10月 11月 20or21日 12月 1月 29or30日 2月 3月	<ul style="list-style-type: none"> 第2回 研究授業、事後研究会 第3回 研究授業、事後研究会 今年度のまとめ・来年度の計画 	<ul style="list-style-type: none"> 校内研修会 (次期学習指導要領について)

- ・教科部会の定例化(月1回以上)
- ・ヤングキャリア研修(学期1回)